

外来種キタアメリカフジツボの 個体群動態：幼生の加入との関係

岩崎藍子¹，萩野友聡²，阪口勝行¹，佐原良祐¹，
金森由妃¹，大平昌史¹，野田隆史²

¹北海道大学大学院環境科学院

²北海道大学大学院地球環境科学研究院

キタアメリカフジツボは北米西岸を原産とする外来性のフジツボである。本種は2000年に北日本の岩礁潮間帯で初めて発見されたが、2013年の時点で道東の岩礁海岸に広く定着している。本種を含むフジツボ類は、浮遊幼生期を経て固着生活に移行するため、底生フジツボの数と分布の変動とその背後にある要因を解明する上で、幼生が岩礁に定着する場所や時期などの幼生の加入過程についての知見を得ることが極めて重要である。そこで本研究では、キタアメリカフジツボの幼生の加入する季節と潮位（高さ）を明らかにし、複数の海岸での成体の分布と幼生加入量の関係を検討した。

調査は、釧路町、厚岸町、および浜中町の5つの海岸で行った。各海岸に5つの岩礁を選び、それぞれに幼生の加入量を計測するための加入区を設置した。加入区では、5月、8月、11月に岩礁表面から全生物を除去し、その後定着したキタアメリカフジツボを計数することで、幼生の加入量を推定した。

その結果、キタアメリカフジツボの幼生は夏から秋にかけて主に潮間帯中～下部に多く加入していたことが明らかになった。このような特徴は、本種の原産地での生態と良く一致する。また、幼生の供給は西部の海岸で多いことが判明した。このことから、調査範囲外の西方の海岸から放出された幼生が多い可能性が考えられるが、これを確かめるにはさらなる調査が必要である。なお、海岸ごとでの幼生の加入量と成体の分布量の間には明白な対応関係は認められなかった。これは、幼生の供給量以外の要因が成体の分布量を決定していた可能性を示唆している。幼生の供給量が多くても成体の分布量が少ない海岸では、在来フジツボとの競争や捕食者（肉食性巻貝）による捕食（アラムら、平成24年度 厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金 概要報告書）などにより、キタアメリカフジツボの数が抑えられているのかもしれない。